

膵がんを早期に見つけるために

市立宇和島病院（御殿町） 大野 芳敬

膵がんの患者数は近年増加傾向にあり、2015年の報告では膵がん死亡者数は肺がん、大腸がん、胃がんに次ぐ第4位となっています。膵がんは診断時に膵臓の周囲の血管や臓器に広がっていたり、遠くの臓器に転移していることが多く、極めて悪性度の高いがんです。

愛媛大学医学部附属病院の黒田医師らは、県内の関連病院（市立宇和島病院を含む）で膵がんを診断された1,082人のデータをまとめ、そのうち約80%はすでに診断時に進行した状態であったと報告されています。全国的にも早期に診断された膵がんの割合は少なく、ステージ0・1（早期ステージの膵がん）は、全体の2%にすぎません。

できる腫瘍の大きさは従来2cm以内とされてきましたが、現在では1cm以内が目標と考えられています。腫瘍径が1cm以下の膵がんでは、約4割の患者さんは無症状で、腫瘍マーカーなどの上昇も低率とされています。

診断する契機になるのは膵臓にできたのう胞（内部に液体が溜まっている袋状のもの）や主膵管（膵臓を通る管）の拡張などが多いとされています。腹部超音波検査などでこれらの病変が見つかった場合、造影CTやMRI検査などで精密検査を行い、腫瘍（膵がんの病変）を見つけます。最近では、内視鏡の先端に超音波装置が装着されたEUS（超音波内視鏡検査）でそれらの病変を見つけていることが可能です。特に1cm以下の膵がんの場合、EUSが最も検出率が高いとされています。また腫瘍が見つかった

際には、そのEUSを用いて組織検査をするEUS-FNA（EUSガイド下穿刺吸引細胞診）で確定診断を行うことが可能となりました。

よく患者さんやご家族からどうして膵がんになったのでしょうか？と質問を受けます。残念ながら膵がんの原因ははっきりわかっていません。しかし、膵がんに関わるさまざまな危険因子はわかっています。親子や兄弟姉妹に膵がんの人がいる場合は、膵がんになるリスクが高くなると言われています。また自身が糖尿病、慢性膵炎、遺伝性膵炎、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、膵のう胞、肥満、そして喫煙や大量飲酒している人はリスクが高いと言われています。特に、このような危険因子を複数持つ人は医療機関を受診し、定期的に検査を受けることをお勧めします。

余暇のひととき

吉田川柳会

もう少し長生きします墓参り
 妥協せず頑固通せずブーメラン
 ゆっくりと解こう心の縫れ糸
 荒木 孝二
 加賀山一興
 金子すすむ

つしま短歌会

まだ寒き沖繩の海に泳ぎる孫らのはしゃぐ
 声ひびきくる 中村 美鈴
 梵鐘は「日本百選の音」尾道に響き通りぬ古
 稀の旅路に 首藤 千晶
 鳴く蟬の声に涼しき月影の澄みわたるかな秋
 の夜長を 森 ユミ子
 折々の自然に粧ふ56号線今日は台風の爪跡残
 す 西崎美紀子
 青く澄む九月半ばの朝の空へ白鷺一羽高く飛
 び立つ 清家 幸子

加里場俳句会

棧橋に墓参の一步踏み出せり 辻 渚
 振り返る看取りの日々や夕野分 井上 志津
 幼な子の口であばれる葡萄かな 中川 寛
 智を肥やす豊作の秋ここにあり 井上 ころ
 立秋の草に縫りし虫の貌 平山 千代
 にぎやかな子らの帰りて秋となる 吉田 紀美子
 弟と諧掘りし日々懐かしむ 松岡 博水
 三日月に舌を伸ばせり一角獣 牛津 せつ
 天高しマーチの一步左から 堤 とし
 夏果ての太平洋に逢ひに行く 加藤 静江

ひよどり句会

祭壇の写真微笑む秋の雨 板倉 潤子
 新秋やホテルディナーの銀の匙 清家カヨ子
 三日月や漁火ひとつ揺らぎをり 田中 孝子
 桐経の僧と話せる兄のこと 平山 雅州仔
 すすき原放牧の牛伸びやかに 日野 啓子
 のうぜんの残花に夕日濃かりけり 平岡 千代子